

米づくり情報（NO. 1）

令和7年6月20日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値	本年値	平年値	本年値	平年値	本年値	平年値	本年値	平年値	本年値
		℃	℃	℃	℃	℃	℃	mm	mm	時間	時間
5月	4	18.7	21.9	24.3	25.7	13.7	18.2	32.4	52.0	31.7	17.3
	5	19.4	18.5	25.0	21.6	14.4	16.4	25.3	156.0	31.8	6.8
	6	20.1	18.3	25.5	24.0	15.2	13.4	26.1	0.0	36.1	44.4
6月	1	20.6	19.6	25.8	24.9	16.3	14.2	24.3	28.0	27.1	41.4
	2	21.3	21.4	26.1	25.6	17.3	18.1	33.7	116.5	24.1	7.1
	3	21.9	23.0	26.5	26.0	18.2	20.4	48.2	118.5	22.1	1.1
	4	22.4	20.8	26.8	25.0	19.0	17.1	67.9	11.5	19.6	19.3
	5	23.1	—	27.1	—	20.0	—	85.9	—	16.0	—
	6	24.0	—	27.7	—	21.1	—	95.6	—	14.1	—

- ・気温は平年より、5月4半旬は3.2℃高く、5月5半旬～6月1半旬にかけて0.5～0.9℃低く、6月2半旬～3半旬は0.1～1.4℃高く、6月4半旬は1.6℃低く推移した。
- ・降水量は、移植後の6月1半旬～6月4半旬は平年より多く181%であった。また、日照時間は5月4半旬～6月4半旬にかけて平年の50%以下であり、特に5月5半旬、6月2～3半旬は平年の10%以下であった。
- ・梅雨入りは平年(6/4 ごろ)よりも遅れて、6/8であった。

2 生育状況（6月16日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/1 移植 東山代町脇野	本年値	30.6	93	4.3	35.2	・草丈は平年より低い ・茎数は、平年より少ない ・主稈出葉数は平年より少ない ・葉色は平年より淡い
	平年値	32.3	205	6.8	38.9	
	平年比	95%	45%	-2.5	-3.7	

※6月2・3半旬は平年より降水量が多く、日照時間も少なかったため、茎数が少なく、また出葉数が少ない。浅水管理を行うことで、茎数の確保に努める。

（耕種概要）

品 種	年 次	苗 質		移植日 (月 日)	栽植密度 (株/㎡)	備考
		苗丈	葉令			
夢しずく	本年値	11.9	2.3	6月1日	18.2	前作 水稻
	平年値	14.9	2.5	5月30日	18.2	前作 水稻

※夢しずくの平年値は、H27～R6の平均値から最上位と最下位の数値を除いた平均値。

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・現在、分けつ発生盛期である。
- ・1株当たり20本程度の茎数が確保できた圃場から順次中干しに移行する。

- ・ 6月下旬には、幼穂形成始期直前となり稲の用水要求度が高い時期となるため中干しが遅れないよう留意する。
- ・ 今後は、葉いもち病の発生に留意し、進展型の病斑が見られた場合は、オリブライト 250G 等により直ちに防除を実施する。



左 18本 右 17本
(間もなく中干へ移行)

左 29本 右 23本
(ただちに中干へ移行)

参考) 夢しずく茎数の目安

○中干しの開始時期の目安

- ・ 有効茎（1 株当たり 20 本程度の分けつ）が確保でき、株が開張して草丈がおおむね 35～50 cm となった頃から開始する。

○中干しの期間と程度

- ・ 中干し実施期間は、5～7 日とする。
- ・ 中干しの程度は、軽く足跡がつき、小さなヒビが入る程度とする（歩いて足跡がつくが、抵抗なく歩ける硬さが理想）。

※土壌が白乾し、手のひらが縦に入るようなヒビができる強い中干しは、断根を伴い稲のストレスとなるので避ける。

葉と葉が重なり、30m先の条間が見えなくなったころが
中干し開始の目安



小ひびが入るくらいの
強さで行う



2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・ 活着期～分けつ期を迎えている。
- ・ 除草剤散布後7日以降は、浅水管理（水深0～3cm 程度）とし、分けつの発生促進に努める。
また、補植苗はいもち病の発生源となるため、除草剤散布後は速やかに撤去する。
- ・ ガスわき対策として移植後15日、25日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。

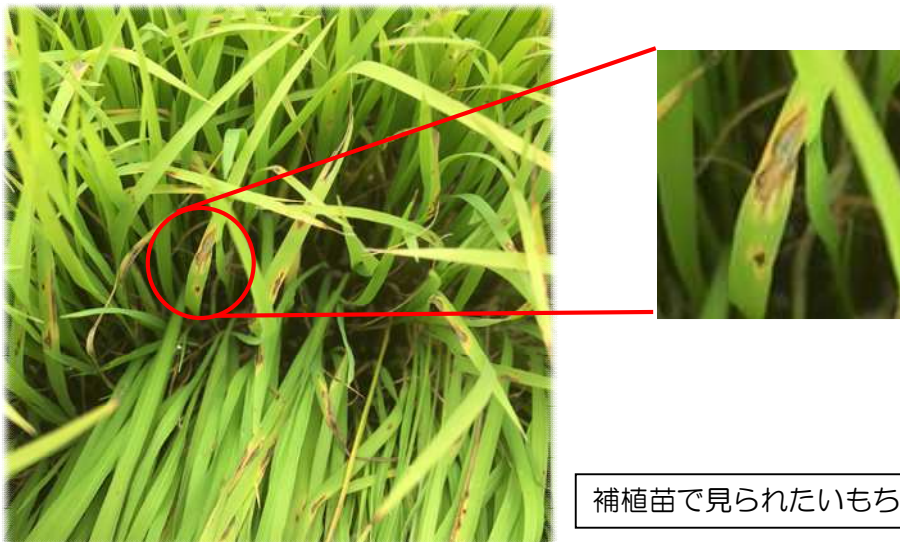
3) 共通

○雑草管理

- ・ 除草剤散布時に水深が確保できなかった圃場や、散布後に水が確保できなかった圃場で雑草の発生が見られる場合は、中後期除草剤による対応を行う。
- ・ 用水確保が難しい圃場においては落水処理のできる除草剤、用水が確保できる圃場は粒剤等の中後期除草剤を選択し適切に防除を実施する。

○病虫害防除

- ・ 佐賀県農業技術防除センターの病虫害発生予察情報（6月3日付け）では、6月の予想発生量は、早植え水稻 葉いもち「やや多」、普通期水稻 葉いもち「並」、スクミリンゴガイ「やや多」とされている。
- ・ スクミリンゴガイの予想発生量が「やや多」とされていることから5月28日付で「スクミリンゴガイの発生予測と防除徹底について」が出されている。
浅水管理と薬剤防除を組み合わせて、スクミリンゴガイによる被害を抑える。
また、田植同時除草剤については、適正な水管理ができないため、なるべく使用を避ける。
使用する場合は、除草剤散布と同時または散布直後に、メタアルデヒド剤（スクミノン）などを必ず散布（施用後は要湛水）する。
- ・ 圃場内に放置されている補植苗（置き苗）は「いもち病」の温床になるため速やかに除去する。
- ・ ウンカ類については、5/14・17・6/14・16にセジロウンカの飛来が確認されているので、今後の発生状況には注意する。



補植苗で見られたいもち病の病斑

令和7年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

